

国語 第2学年 みんなで話をつなげよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第2学年下巻の話すこと・聞くことの単元。同社の年間指導計画例では10月～11月に置かれている。東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）では、第2学年9月の「みんなで話し合おう」が同じA(1)オを扱う。単元名と話し合いの例は会社で違うので、使う教科書で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、友達の相談を聞いて、知りたい所をたずね、前の人の考えと同じか違うかを言ってから自分の考えを付け足し、相談した人がやってみたい考えを選べるところまで、話し合いを進められる。「同じで」「ちがって」「付け足して」「まず・それから」といった言葉を、前の人の話に結び付けて話すための言葉として使い分けられることが、この単元で目指す姿である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(1)エ	エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(2)イ	イ 尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にしてい，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(4)	(4) 第2の各学年の内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については，意図的，計画的に指導する機会が得られるように，第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度，第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度，第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際，音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりしながら話し合える（A(1)オ）。言葉がもつよさを感じるとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。（A(1)オ）	①進んで、相手の発言を受けて話し、学習の見通しをもって、友達の相談にのって話し合おうとしている。

単元の流れ

全8時間。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（第2学年）で、この単元は10月～11月、話すこと・聞くこと8時間。学習指導要領 第3の1(4)は、第1学年及び第2学年の話すこと・聞くことに年間35単位時間程度を配当するとしている。国語の標準授業時数は第2学年で年間315単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。配当は自校の年間指導計画に合わせる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○先生が用意した相談（学校生活の小さな困りごと）に、みんなでたずねたり考えを出したりする。 ○話がつながった時とつながらなかった時を比べ、単元のめあて「ともだちのそうだんによって、つなぐ言葉をつかって話そう」をつかむ。	態①（観察）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、前の人のお話に結び付けて話す言葉（たずねる・同じ・ちがう・付け足す・順番）を見つけて「つなぐ言葉カード」を作る。	知①（カード・発言）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3	○自分が相談したいことを決め、「こまっていること」「わけ」「どうなったらいいか」を相談メモに書く。	
	4	○相談する人と聞く人の役を交代しながら、グループで短い相談の練習をする。 ○聞く人は、まずたずねて、くわしく分かってから考えを言う順を確かめる。	
	5	○グループで相談会をする（一回目）。相談した人は、出た考えの中からやってみたい考えを選んで言う。 ○どの言葉で話がつながったかを振り返る。	思①（観察）
	6 （本時）	○相談会をする（二回目）。前の人の発言を受けて、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使い、相談した人の困りごとに合う考えを出し合う。	思①（観察・つなぐ言葉カードの記録）
第3次	7	○相談会をする（三回目）。まだ相談する人になっていない子が相談する。 ○話がよくつながったグループの相談会を全体で聞き合う。	思①（観察）
	8	○相談会を振り返り、話がつながるように使った言葉と、相談にのってもらってよかったことを書く。 ○学級の話し合いや休み時間にも使える言葉を確認する。	知①（振り返り） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：友達の相談を聞いて、前の人の発言を受けてたずねたり考えを付け足したりして、話がつながるように話せる。(A(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時の相談会で、話がつながった言葉を振り返る。 ○「この前の相談会で、話がつながったのは、どんな言葉を言った時でしたか」 【めあて】ともだちの話を受けて、話がつながるように、そうだんにのろう。 2 本時に相談する人と順番、相談会の進め方（相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める）を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・「どうして」と聞いたら、くわしく分かった。 ・「わたしも同じで」と言ったら、話が続いた。 ・みんながばらばらに言って、つながらなかった。	・前時までに作った「つなぐ言葉カード」を黒板に貼り、手元にも小さいカードを置かせる。 ・相談会の進め方を、四枚の絵カードで黒板に示しておく。 ・人の困りごとを笑ったり、からかったりしないことを、相談会の前に確かめる。
展開 (分)	3 グループで相談会をする。 (1) 相談する人が、相談メモを見ながら困っていることを話す。 ○「相談する人の話で、まだよく分からないことはありますか。たずねてみましょう」 (2) 聞く人が、たずねたり考えを言ったりする。 ○「前の人の考えと、同じですか、ちがいますか。付け足すことはありますか」 (3) 相談した人が、出た考えの中から、やってみたい考えを選んで、そのわけを言う。 4 話がよくつながったグループの相談会を、全体で聞か合う。 ○「どの言葉で、話がつながりましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・それは、いつ困るの。 ・どうしてそうなるの。 ・～さんと同じで、～がいいと思う。 ・～さんとちがって、わたしは～がいいと思う。 ・～さんの考えに付け足して、～もするといいよ。 ・まず～して、それから～するといいよ。 ・「どうして」と聞いたから、くわしく分かった。 ・「付け足して」と言ってから話すと、つながった。	・考えを言う前に、まず一つはたずねる順にする。 ・自分の考えだけを言い続ける子には、「前の人の考えと同じかな、ちがうかな」と問い返す。 ・発言できない子には、つなぐ言葉カードを一枚選ばせ、カードの言葉から話し始めさせる。 ・相談する人が話しにくい時は、相談メモを読み上げてよいことにする。 ・話が困りごとから離れたら、グループの真ん中に置いた相談メモを指して戻す。 ・先生はグループを回り、つなぐ言葉が出た所を記録しておき、全体場で紹介する。 ◎思① 前の人の発言を受けて、たずねたり考えを付け足したりして話している。(観察・つなぐ言葉カードの記録)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「今日、話がつながるように使った言葉はどれですか。相談にのってもらって、どうでしたか」 【まとめ】ともだちの話を受けて、たずねたり、「同じ」「ちがう」「付け足す」の言葉を使ったりすると、話がつながる。 6 次の相談会で相談する人を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・「ちがって」を使って、自分の考えを言えた。 ・たくさん考えを出してもらって、やってみたいことが決まった。	・振り返りは、使ったつなぐ言葉に丸を付け、一言書く形にする。 ・相談した人には、選んだ考えをやってみたら、次の時間に知らせるように伝える。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

上段左に日付と単元名、めあて。上段右に相談会の進め方（相談を聞く→たずねる→考えを言う→相談した人が決める）を四枚の絵カードで左から右へ並べる。中段に「つなぐ言葉カード」を種類ごとに並べる（たずねる：いつ・どこで・どうして／同じ：～さんと同じで／ちがう：～さんとちがって／付け足す：～に付け足して／順番：まず・それから）。下段左に、全体で聞き合ったグループの発言を短く書いて、話した順に矢印でつなぐ。下段右にまとめと、振り返りの観点（使った言葉・相談にのってもらって思ったこと）。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、前の人の話を受けずに、自分の考えだけを順番に言う。手当ては、考えを言う前に「同じ」「ちがう」「付け足す」のどれかを一言付けることを相談会の約束にし、カードを手元に置くこと（A(1)オ）。二つ目、たずねる言葉が出ない、または「なんで」ばかりになる。手当ては、たずねる言葉（いつ・どこで・どうして・どんな）をカードにし、先生が相談する人になって、たずね方の手本を見せること。三つ目、相談した人の困りごとから離れて、自分のしたいことを話し出す。手当ては、相談メモをグループの真ん中に置き、「相談した人の困りごとがよくなる考えかな」と問い返すこと。四つ目、相談したいことが思い付かない。手当ては、学校生活（休み時間・係・当番・生活科の活動）の中から話題を選ぶ例を示し、相談メモを書く時間を前もって取ること。五つ目、話をしっかり聞いていないので、同じか違うかが言えない。手当ては、前の人が話し終えたら、聞いた人が一言で言い直してから自分の考えを言う時間をはじめのうちだけ取ること（A(1)エの「話の内容を捉えて」と結び付く）。

プリントの案

つなぐ言葉カード

「たずねる（いつ・どこで・どうして・どんな）」「同じ（～さんと同じで）」「ちがう（～さんとちがって）」「付け足す（～に付け足して）」「順番（まず・それから）」の五種類を色分けしたカード。黒板用の大きいカードと、手元に置く小さいカードの二つの大きさ。使った言葉に印を付ける欄を裏に付ける。(2)アとA(1)オに合わせた。

相談メモ

「こまっていること」「わけ（どうしてこまるのか）」「どうなったらいいか」の三つの枠と、相談会の後を書く「やってみたい考え」の枠。話題を選ぶ手がかりとして、休み時間・係・当番・生活科の活動などの言葉を欄外に並べる。

相談会の進め方カード

「相談を聞く」「たずねる」「考えを言う」「相談した人が決める」の四つを、絵と短い言葉で一枚ずつ示すカード。グループの机の上に順に並べて使う。

振り返りカード

その日に使ったつなぐ言葉に丸を付ける欄と、「相談にのって（のってもらって）思ったこと」を一言書く欄。単元を通して同じカードに書き足し、第8時に見返す。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第2学年315）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（第2学年）。单元名・教材名・時期（10月～11月）・配当時数（話すこと・聞くこと8時間）・指導目標の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／東京書籍『新編 新しい国語』（令和6年度版）第2学年 单元一覧。「みんなで話し合おう」（9月・8時間・A(1)オ）の出典（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_2_202401.docx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

